

「患者調査」結果の概要

1 都民の推計患者数

【報告書 P7～11】

(1) 施設の種類・性・年齢階級別 推計患者数（表1）

- * 調査日における都民の推計入院患者数は、94.6 千人となっている。
- * 調査日における都民の推計外来患者数は、784.5 千人となっている。
- * 年齢階級別にみると、65 歳以上の推計入院患者数は68.2 千人（構成比 72.1%）、65 歳以上の推計外来患者数は351.0 千人（同 44.7%）となっている。

表 1 施設の種類・年齢階級別にみた都民の推計患者数

(単位:千人) 令和5年10月

性 年齢階級	入 院			外 来			
	総数	病院	一般診療所	総数	病院	一般診療所	歯科診療所
総 数	94.6 (93.9)	92.8 (92.3)	1.8 (1.6)	784.5 (811.3)	140.4 (131.5)	534.1 (531.2)	110.1 (148.6)
男	43.6	42.9	0.7	322.4	64.6	214.9	42.9
女	50.9	49.9	1.1	462.1	75.8	319.1	67.2
0 歳	1.2	1.2	0.1	5.4	1.7	3.7	-
1 ～ 4 歳	0.5	0.5	-	25.4	3.4	21.7	0.3
5 ～ 9 歳	0.4	0.4	-	24.9	2.9	21.1	0.8
10 ～ 14 歳	0.5	0.5	-	21.1	2.3	17.3	1.6
15 ～ 19 歳	0.6	0.6	-	12.9	1.6	9.7	1.6
20 ～ 24 歳	0.7	0.7	-	20.9	2.2	16.2	2.4
25 ～ 29 歳	1.1	1.1	-	28.3	3.2	22.3	2.7
30 ～ 34 歳	1.6	1.5	0.1	32.4	4.1	22.9	5.4
35 ～ 39 歳	1.7	1.7	-	29.8	5.4	21.6	2.8
40 ～ 44 歳	1.8	1.7	-	29.6	5.8	20.5	3.3
45 ～ 49 歳	2.4	2.4	-	42.9	6.9	30.4	5.6
50 ～ 54 歳	3.8	3.8	-	54.1	9.2	33.7	11.3
55 ～ 59 歳	4.6	4.5	0.1	49.6	9.3	33.9	6.4
60 ～ 64 歳	5.3	5.3	-	55.1	10.2	33.9	11.0
65 ～ 69 歳	6.1	6.0	0.1	59.8	11.5	37.6	10.8
70 ～ 74 歳	9.3	9.2	0.1	72.6	15.7	47.4	9.5
75 ～ 79 歳	12.0	11.7	0.3	72.5	16.7	47.3	8.6
80 ～ 84 歳	13.7	13.6	0.1	69.3	15.2	45.7	8.4
85 歳 以 上	27.1	26.4	0.7	76.7	13.3	45.9	17.5
不 詳	0.1	0.1	-	1.2	-	1.2	-
(再 掲)							
65 歳 以 上	68.2	66.8	1.4	351.0	72.2	223.9	54.8
70 歳 以 上	62.1	60.9	1.2	291.1	60.8	186.3	44.1
75 歳 以 上	52.8	51.7	1.1	218.5	45.1	138.9	34.5

注 1 歯科診療所は外来のみである。

2 ()は令和2年の数値である。

(2) 推計患者数の年次推移 (図1-1、図1-2)

図1-1 施設の種別別にみた都民の推計患者数の年次推移

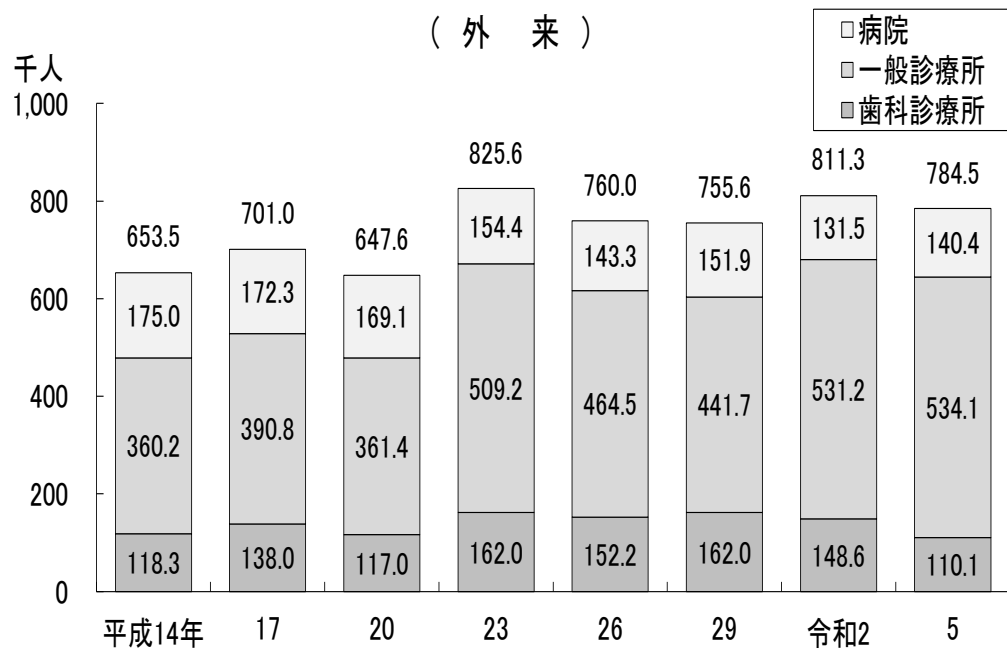
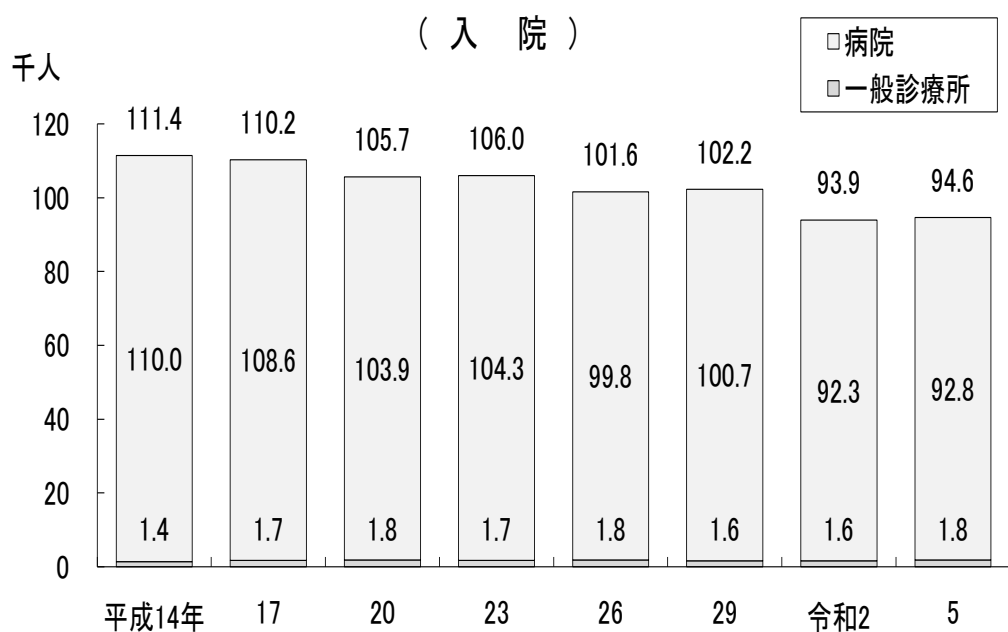
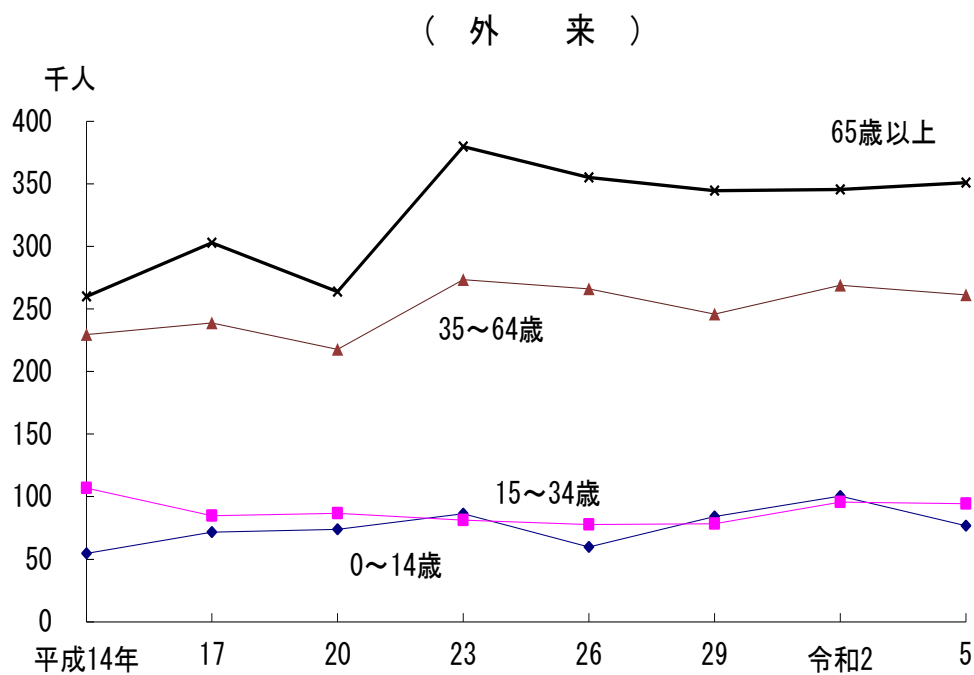
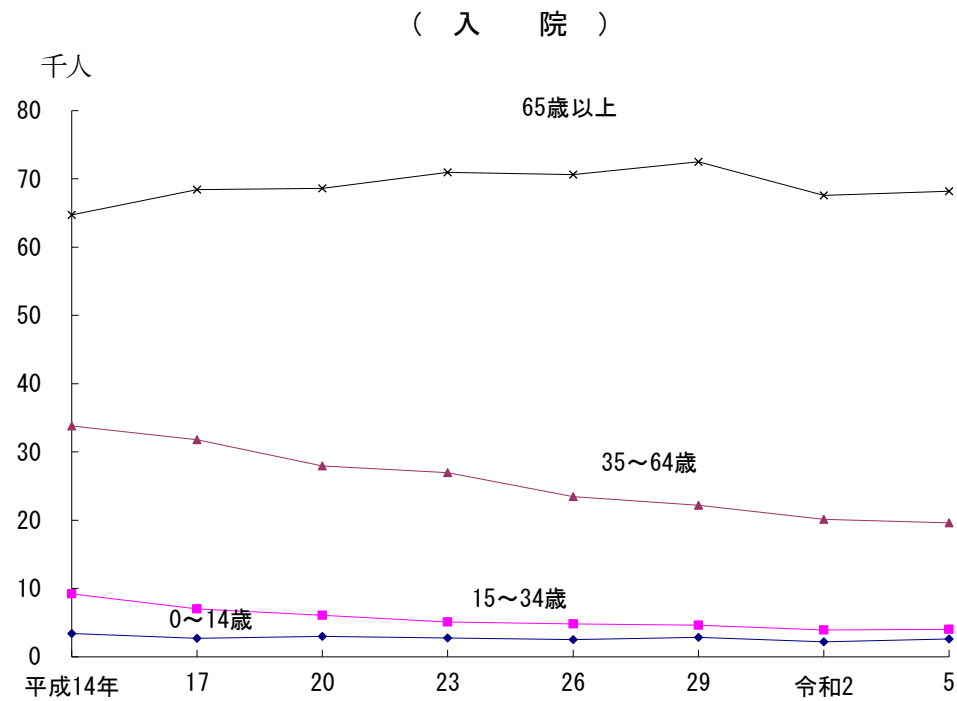


図 1 - 2 年齢階級別にみた都民の推計患者数の年次推移



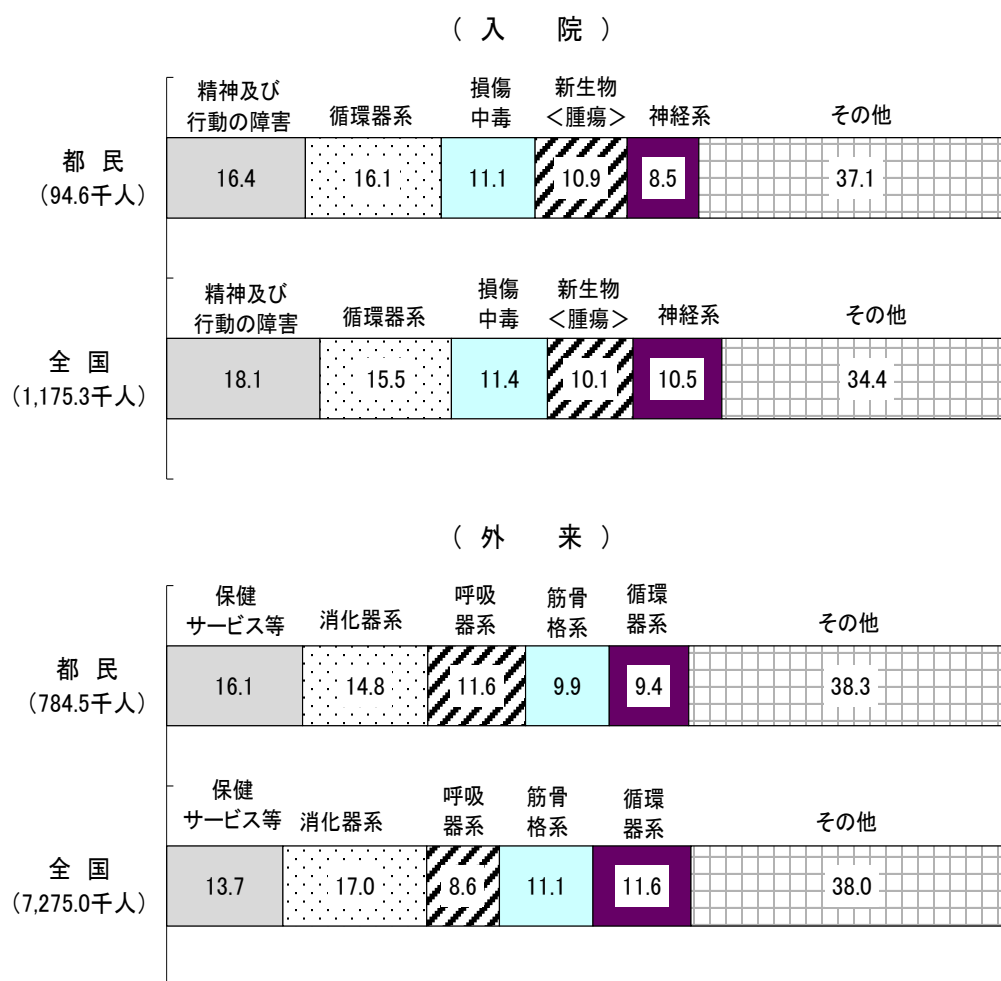
(3) 傷病分類別推計患者数（図1－3）

- * 都民の入院患者を傷病分類別にみると、「精神及び行動の障害」15.5千人（入院患者の16.4%）、「循環器系の疾患」15.2千人（同16.1%）、「損傷、中毒及びその他の外因の影響」10.5千人（同11.1%）の順となっている。
全国の順位も、上位3位までは同じである。
- * 都民の外来患者を傷病分類別にみると、「健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」126.0千人（外来患者の16.1%）、「消化器系の疾患」116.0千人（同14.8%）、「呼吸器系の疾患」90.8千人（同11.6%）の順となっている。
全国では、「消化器系の疾患」「健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」「循環器系の疾患」の順となっている。

図1－3 傷病分類別にみた都民と全国の推計患者数の構成割合

（単位：％）

令和5年10月



注：（ ）内は推計患者数である。

注：傷病分類の詳細については、報告書 P4、P5 を参照

2 都民の在宅医療の状況（表2、図2）

【報告書 P16～17】

- * 調査日に在宅医療を受けた都民の推計外来患者数は、34.3 千人である。
- * 施設の種類の別みると、「病院」1.5 千人（在宅医療を受けた外来患者の 4.4%）、「一般診療所」13.6 千人（同 39.7%）となっている。
- * 在宅医療の種類の別みると、「往診」3.3 千人（同 9.6%）、「訪問診療」28.1 千人（同 81.9%）、「医師・歯科医師以外の訪問」3.0 千人（同 8.7%）となっている。

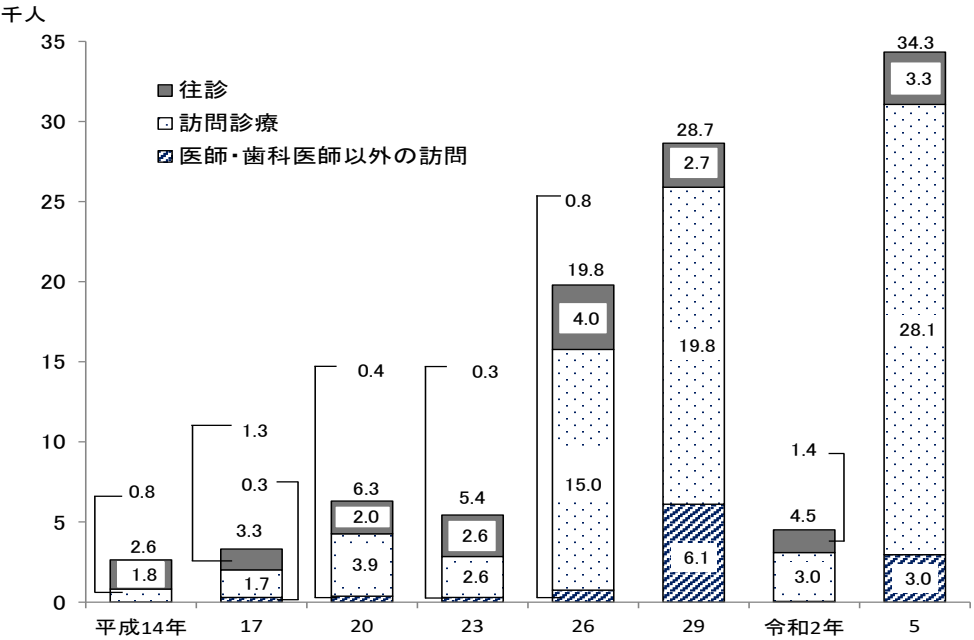
表2 施設の種類の別・在宅医療の種類の別みた都民の在宅医療を受けた推計外来患者数

(単位:千人) 令和5年10月

推計外来患者数 総数	総数				病 院				一般診療所				歯科診療所		
	在宅医療	往診	訪問診療	医師・歯科医師以外の訪問	在宅医療	往診	訪問診療	医師・歯科医師以外の訪問	在宅医療	往診	訪問診療	医師以外の訪問	在宅医療	訪問診療	歯科医師以外の訪問
784.5	34.3	3.3	28.1	3.0	1.5	0.9	0.6	0.0	13.6	2.4	11.2	-	19.2	16.2	3.0

- 注1 「往診」とは、患家(介護老人保健施設等を含む。以下同じ。)の求めにより必要に応じて患家に赴いて診療するものをいう。
- 2 「訪問診療」とは、医科においては、居宅において療養を行っている患者であって、通院が困難な者に対して、その同意を得て計画的な医学管理の下に、定期的に医師が訪問して診療を行うものをいい、歯科においては、歯科医師が患家に赴いて診療を行うものをいう。
- 3 「医師・歯科医師以外の訪問」、「医師以外の訪問」及び「歯科医師以外の訪問」とは、居宅において療養を行っている患者であって、通院が困難な者に対して、その同意を得て計画的な医学管理の下に、定期的に当該職種以外の者が訪問して実施されるものをいう。

図2 都民の在宅医療を受けた推計外来患者数の年次推移



3 都民の受療率（表3、図3－1、図3－2）

【報告書P18～19】

- * 調査日における都民の入院受療率は「671」で、全国「945」より低い。
- * 調査日における都民の外来受療率は「5,564」で、全国「5,850」より低い。

表3 都民の受療率（人口10万対）

令和5年10月

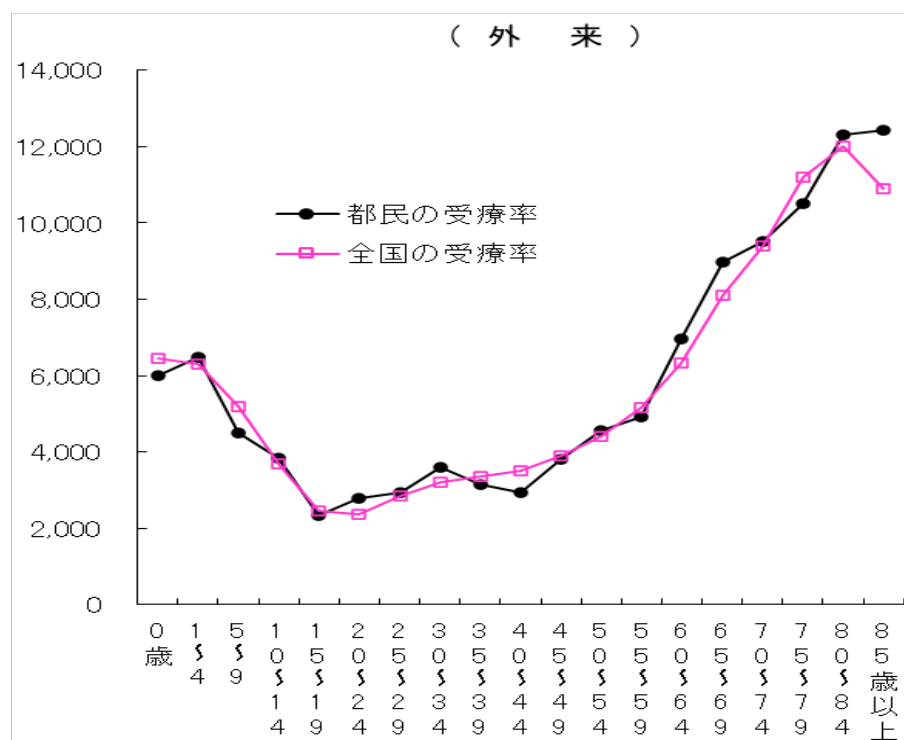
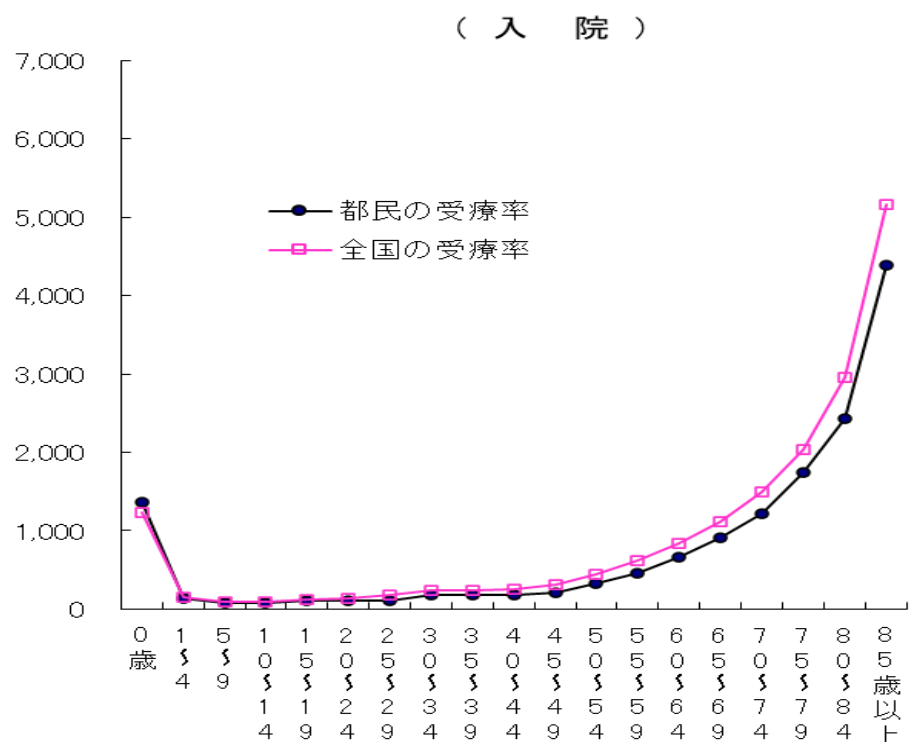
	入院			外来		
	総数	男	女	総数	男	女
都民	671 (669)	631 (630)	709 (706)	5,564 (5,776)	4,662 (4,849)	6,432 (6,670)
全国	945 (960)	893 (910)	995 (1,007)	5,850 (5,658)	5,118 (4,971)	6,544 (6,308)

注: ()は令和2年の数値である。

- ※ 受療率とは
推計患者数を人口で除して人口10万対で表した数
受療率（人口10万対）＝推計患者数／推計人口×100,000

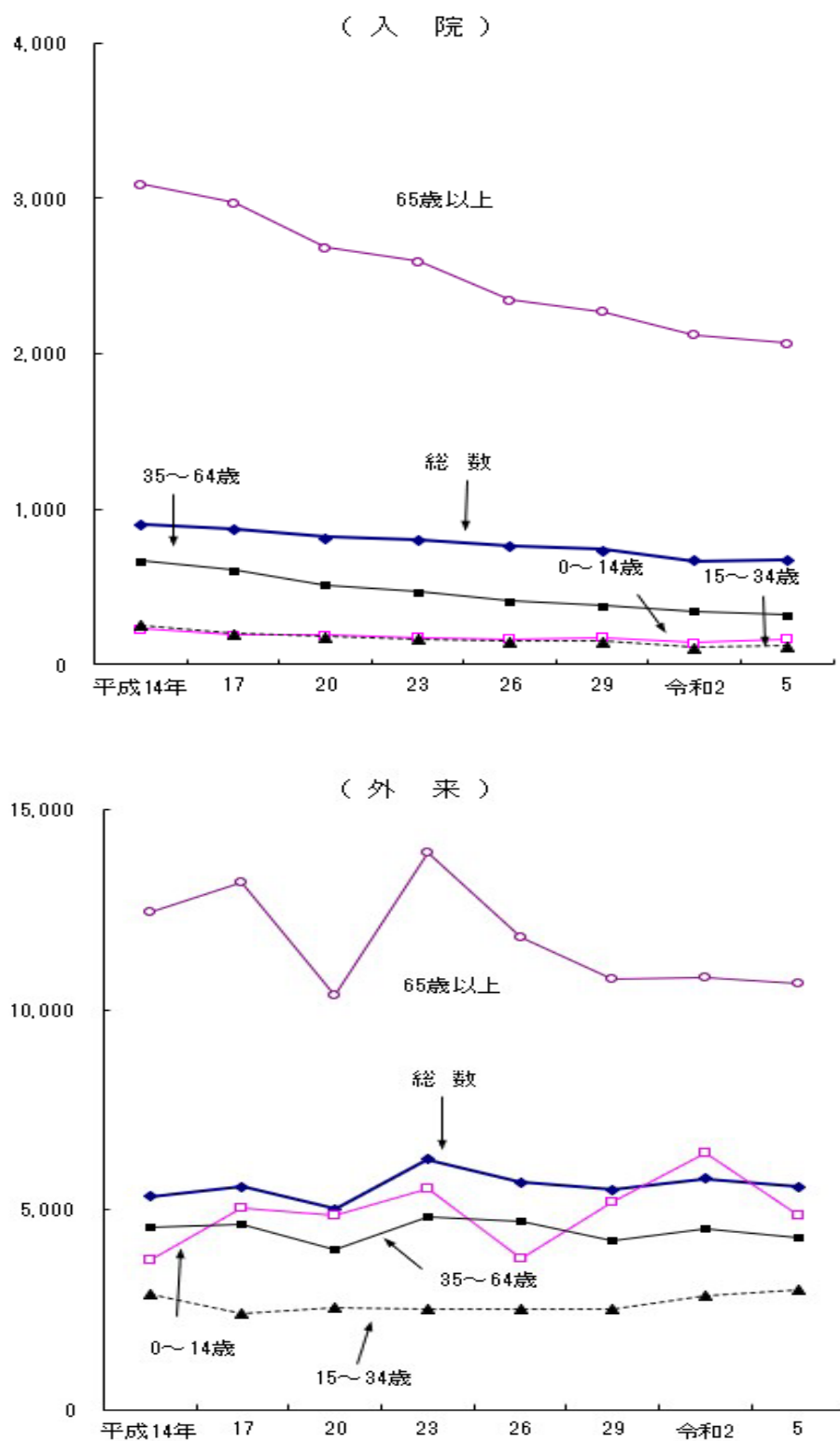
* 年齢階級別(5歳ごと)で見ると、都内の受療率は入院・外来ともに全国と比べても大きな差はみられない。

図3-1 年齢階級別にみた都民と全国の受療率（人口10万対）の比較



* 年齢階級別（4区分）にみると、入院、外来ともに「65歳以上」が最も高くなっている。

図3-2 年齢階級別にみた都民の受療率（人口10万対）の年次推移



4 流出—流入

【報告書 P21～23】

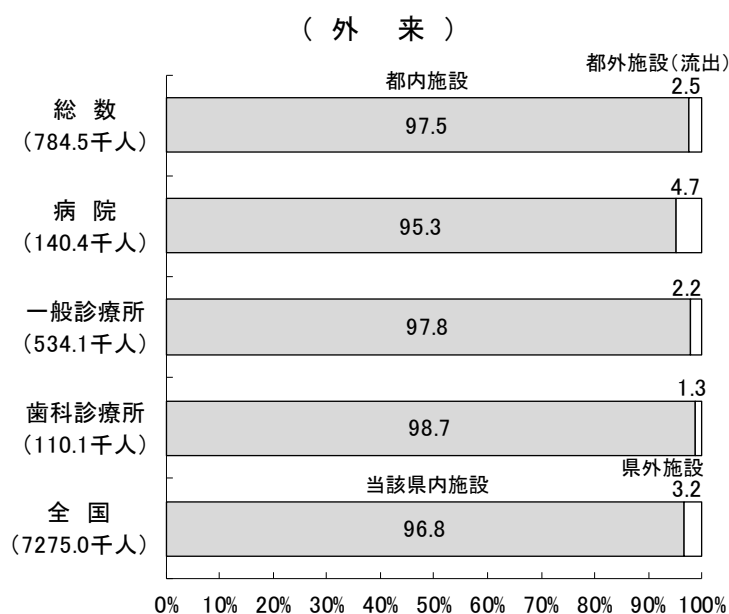
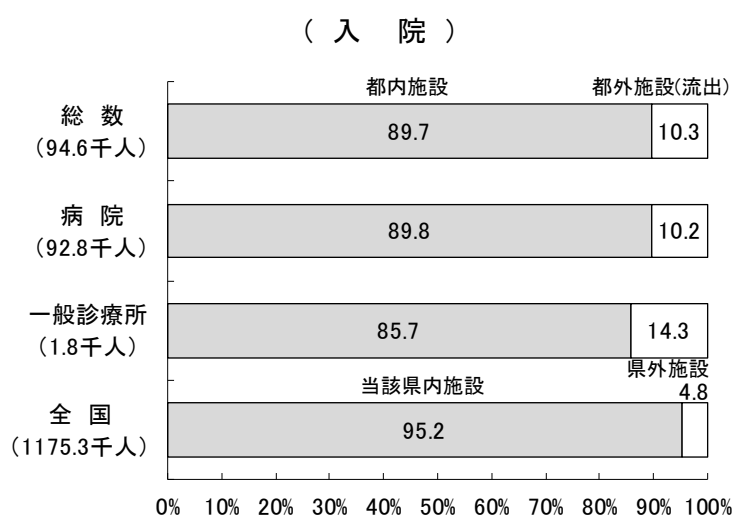
(1) 都民の都外施設受療割合(流出患者割合) (図4－1)

＊ 調査日における都民の都外施設受療割合（いわゆる「流出患者」割合）は、入院 10.3%、外来 2.5%である。

全国（入院 4.8%、外来 3.2%）と比較すると、入院では全国を上回っているが、外来では全国と同程度となっている。

図4－1 都民の都内—都外受療割合

令和5年10月



注：（ ）内は推計患者数である。

(2) 都内施設における都外患者の受療割合(流入患者割合) (図4-2)

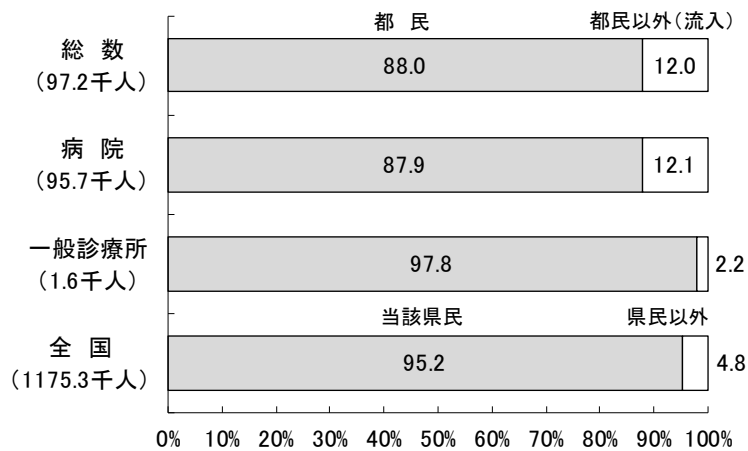
* 調査日における都民以外の都内施設受療割合(いわゆる「流入患者」割合)は、入院 12.0%、外来 14.0%である。

全国(入院 4.8%、外来 3.2%)と比較すると、入院、外来ともに全国を上回っている。

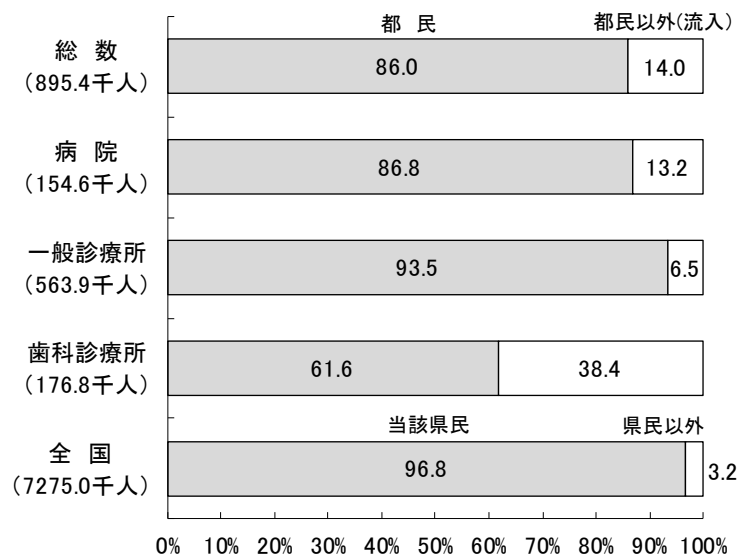
図4-2 都内施設における都民―都民以外の受療割合

令和5年10月

(入 院)



(外 来)



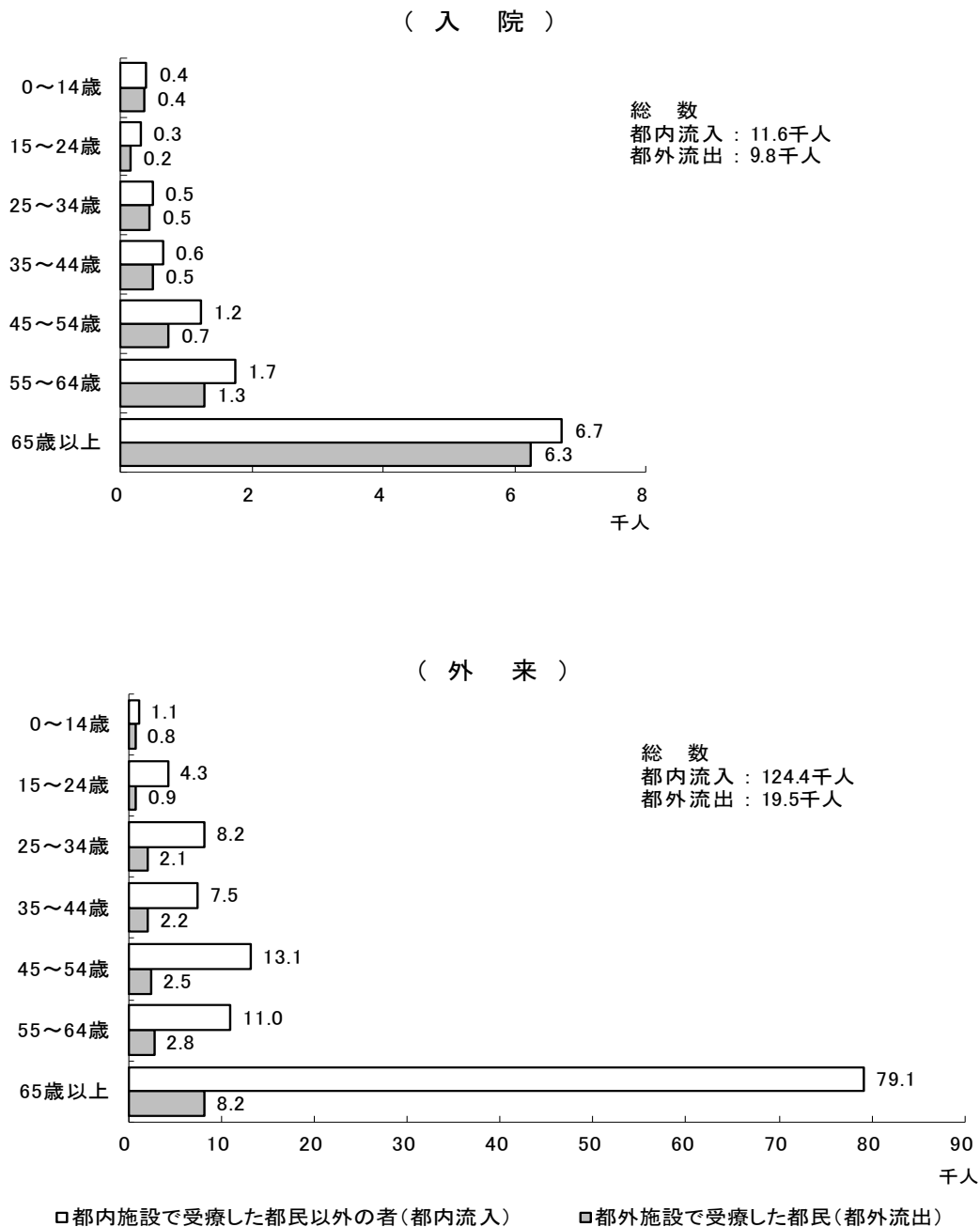
注 () 内は推計患者数である。総数には、住所地不詳を含む。

(3) 年齢階級別 流入—流出推計患者数（図4－3）

＊ 調査日における流入・流出推計患者を年齢階級別にみると、入院、外来ともに流入患者数が流出患者数を上回っている。

図4－3 年齢階級別にみた都内流入—都外流出の推計患者数

令和5年10月

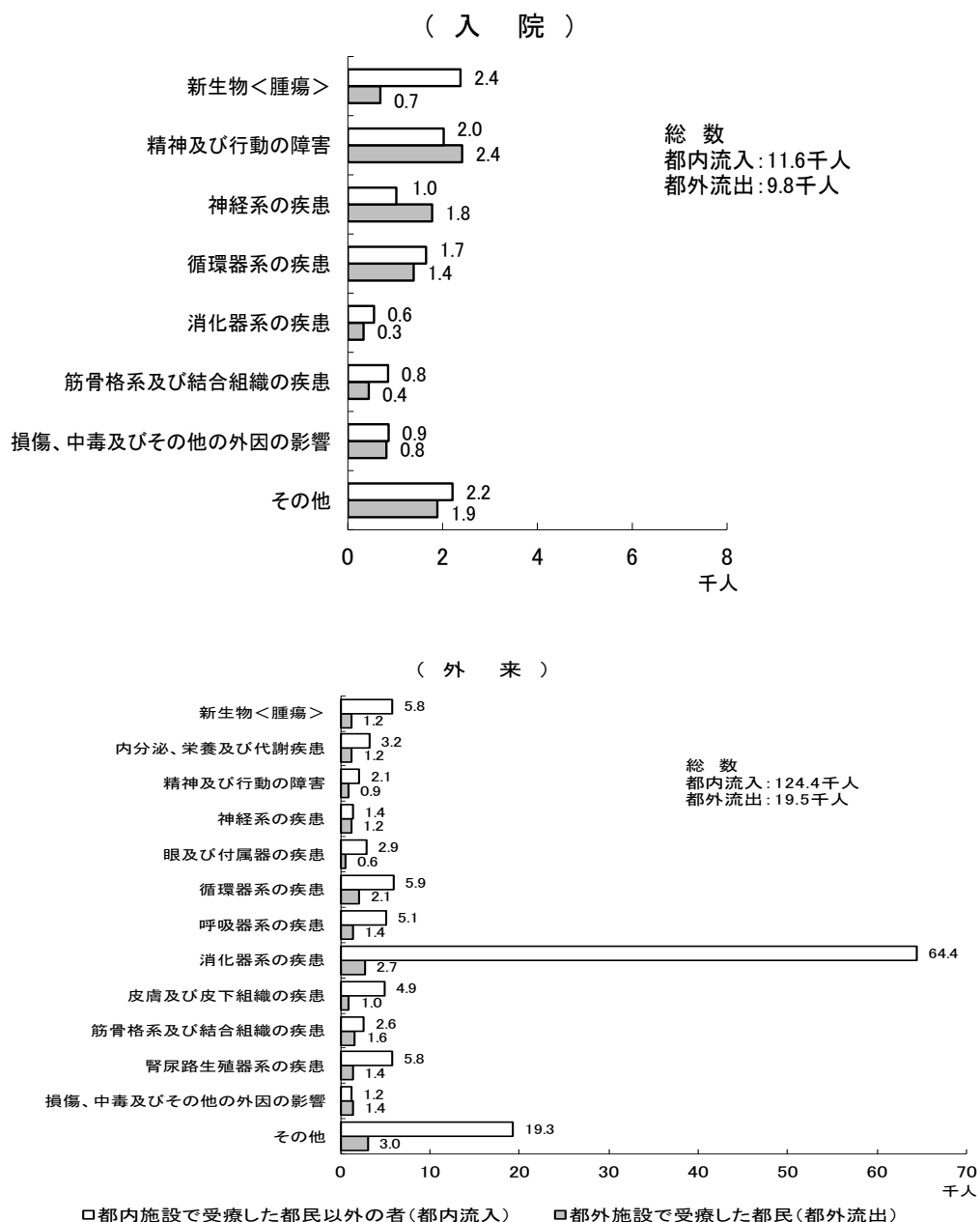


(4) 傷病分類別 流入—流出推計患者数（図4－4）

＊ 調査日における流入・流出推計患者を傷病分類別にみると、入院では、「精神及び行動の障害」、「神経系の疾患」で流出患者数が流入患者数を上回っている。外来では、「損傷、中毒及びその他の外因の影響」を除く傷病で流入患者数が流出患者数を上回っている。

図4－4 傷病分類別にみた都内流入—都外流出の推計患者数

令和5年10月



5 二次医療圏別 都民の居住地県内受療割合（図5）

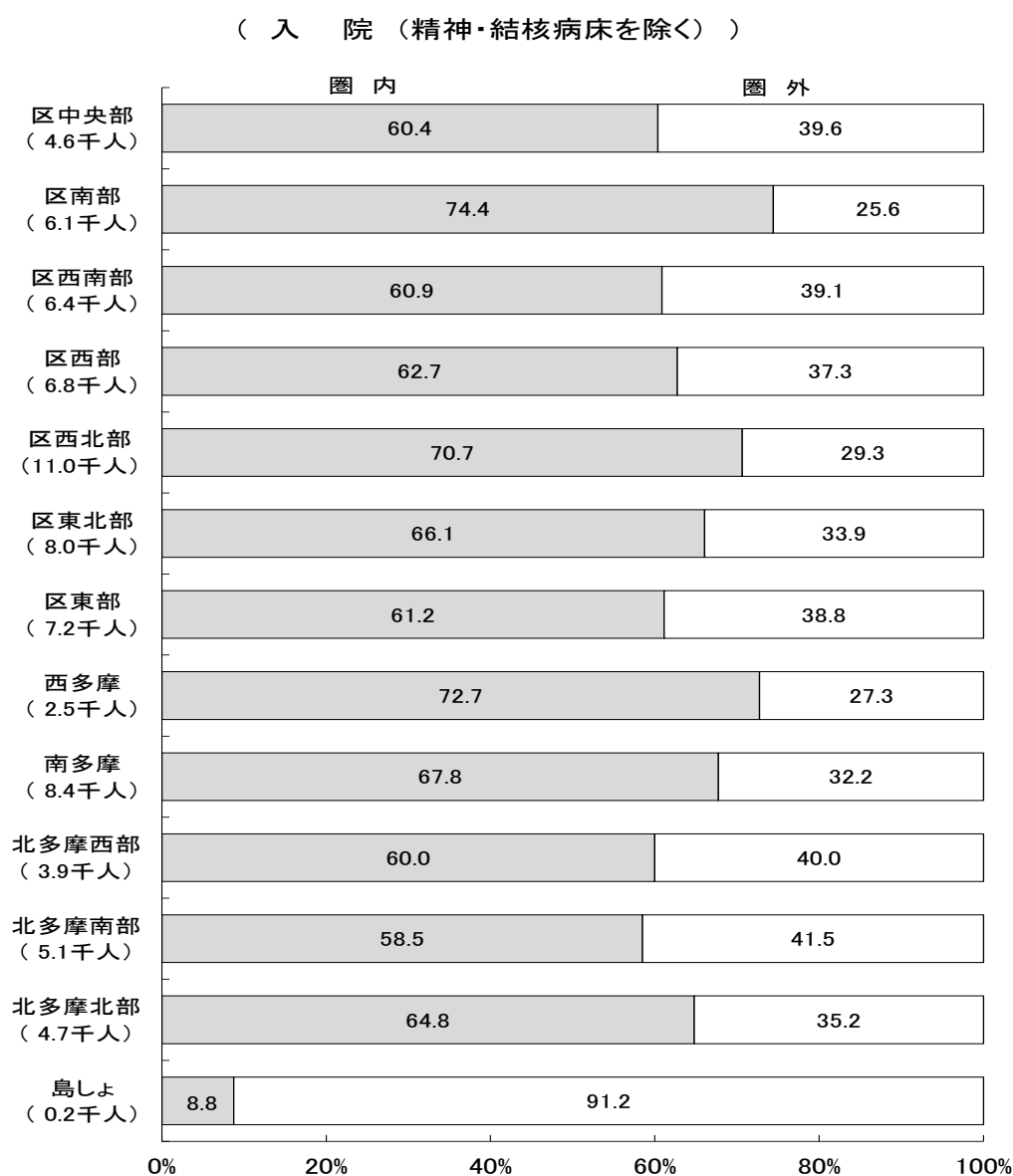
【報告書 P24】

＊ 二次医療圏ごとの推計患者数のうち、患者が自己の居住地圏内の病院に入院した割合は、

- ① 区南部 74.4%（令和2年調査1位）
- ② 西多摩 72.7%（令和2年調査3位）
- ③ 区西北部 70.7%（令和2年調査2位）の順となっている。

図5 二次医療圏別にみた患者の居住地圏内の病院の受療割合

令和5年10月



注：（ ）内は、二次医療圏別推計入院患者数（精神・結核を除くその他の病床）である。

＜参考＞ 二次医療圏

区中央部	千代田区 中央区 港区 文京区 台東区
区南部	品川区 大田区
区西南部	渋谷区 目黒区 世田谷区
区西部	新宿区 中野区 杉並区
区西北部	北区 豊島区 板橋区 練馬区
区東北部	荒川区 足立区 葛飾区
区東部	墨田区 江東区 江戸川区

西多摩	福生市 羽村市 あきる野市 青梅市 瑞穂町 日の出町 檜原村 奥多摩町
南多摩	八王子市 日野市 多摩市 稲城市 町田市

北多摩西部	立川市 国分寺市 国立市 昭島市 東大和市 武蔵村山市
北多摩南部	武蔵野市 小金井市 三鷹市 調布市 狛江市 府中市
北多摩北部	西東京市 清瀬市 東久留米市 東村山市 小平市

島しょ	大島町 利島村 新島村 神津島村 三宅村 御蔵島村 八丈町 青ヶ島村 小笠原村
-----	---

6 退院患者の平均在院日数・在院期間

【報告書 P25～27】

調査期間 1 か月間に医療施設を退院した都民の推計患者数は、129.8 千人である。(図 6－1)

(1) 都民の退院患者の性別・傷病分類別平均在院日数 (表 6)

＊ 退院患者の平均在院日数は、22.2 日である。性別にみると、「男」20.9 日、「女」23.5 日であり、主要な傷病別にみると、「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」322.5 日、「脳血管疾患」59.5 日、「VI 神経系の疾患」56.4 日の順となっている。

表6 傷病分類別にみた都民の退院患者の平均在院日数

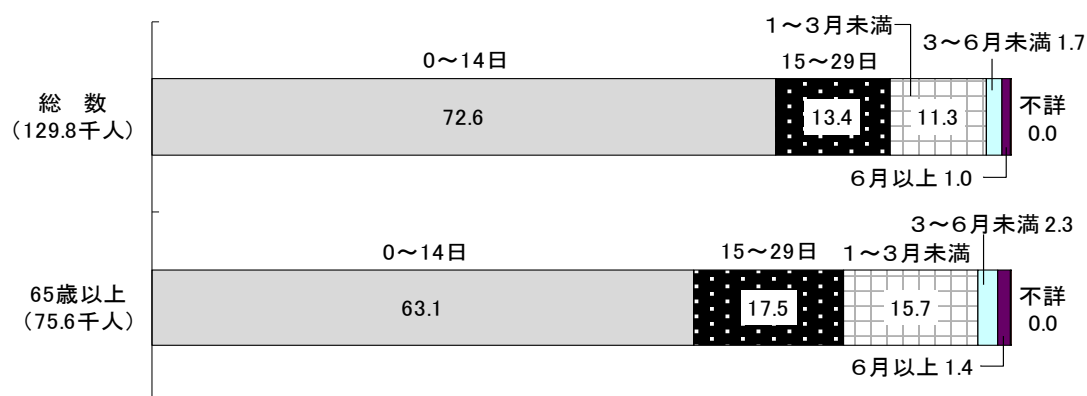
(単位:日)		令和5年9月		
傷病分類	総数	男	女	(再掲)
				65歳以上
総数	22.2	20.9	23.5	28.3
I 感染症及び寄生虫症	21.4	23.2	19.8	32.8
結核	49.1	42.5	64.3	51.5
皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス性疾患	10.9	10.9	11.0	14.0
II 新生物<腫瘍>	11.7	12.2	11.1	13.1
悪性新生物<腫瘍>	12.6	12.6	12.5	13.4
胃の悪性新生物<腫瘍>	13.8	12.7	16.3	14.9
結腸及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	12.4	12.2	12.7	13.7
気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	11.3	10.9	12.1	11.9
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	18.2	17.8	18.5	20.7
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	20.5	18.6	22.3	25.5
糖尿病	21.3	19.4	24.0	26.9
V 精神及び行動の障害	178.0	183.0	174.1	295.3
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	322.5	281.3	355.9	597.9
VI 神経系の疾患	56.4	41.5	74.7	97.5
VII 眼及び付属器の疾患	2.4	2.1	2.7	2.3
VIII 耳及び乳様突起の疾患	4.8	4.5	4.9	5.1
IX 循環器系の疾患	32.0	29.9	34.9	36.5
高血圧性疾患	34.7	40.9	29.6	36.2
心疾患(高血圧性のものを除く)	18.1	18.5	17.4	21.8
脳血管疾患	59.5	54.9	64.5	69.4
脳梗塞	52.6	50.2	55.2	57.7
X 呼吸器系の疾患	21.1	19.9	22.6	28.1
喘息	8.2	8.7	7.7	13.2
X I 消化器系の疾患	9.3	8.1	10.9	11.8
う蝕	1.0	0.9	1.1	1.6
歯肉炎及び歯周疾患	1.7	1.3	2.0	2.6
その他の歯及び歯の支持組織の障害	3.0	3.0	3.0	2.5
胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	16.0	14.9	17.7	17.7
胃炎及び十二指腸炎	20.3	8.7	24.1	25.1
肝疾患	13.8	14.2	13.1	15.7
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	37.1	22.5	53.0	53.8
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	24.7	21.5	27.6	31.5
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	15.3	16.0	14.7	21.4
X V 妊娠、分娩及び産じょく	8.9	-	8.9	-
X VI 周産期に発生した病態	10.9	10.6	11.3	-
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	14.5	12.5	17.0	57.3
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	23.7	26.4	21.7	35.3
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	25.0	21.5	27.6	34.1
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	6.7	7.5	6.1	21.1
歯の補てつ	-	-	-	-
X X II 特殊目的用コード	15.6	15.2	16.1	17.2

注 令和5年9月1日～30日に退院した者を対象とした。

(2) 都民の退院患者の在院期間（図6－1、図6－2）

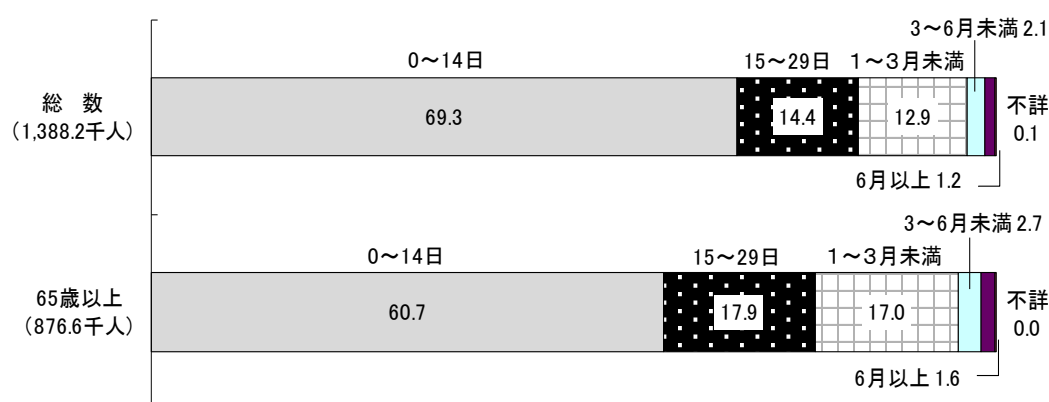
- * 退院患者の在院期間の構成割合をみると、「0～14日」72.6%、「15～29日」13.4%、「1～3か月未満」11.3%の順となっている。
- * 65歳以上では、「0～14日」63.1%、「15～29日」17.5%、「1～3か月未満」15.7%の順となっている。
- * 全国と比較すると、総数、65歳以上ともに都民の方が「0～14日」の割合が高く、15日以上との割合が低くなっている。

図6－1 都民の退院患者の在院期間の構成割合



注：（ ）内は推計患者数である。

図6－2 全国の退院患者の在院期間の構成割合



注：（ ）内は推計患者数である。